

第12回「文芸思潮」エッセイ賞 発表

第12回
文芸思潮
エッセイ賞

二〇一六年度第12回「文芸思潮」エッセイ賞には、三〇四篇という多数の御応募をいただき、まことにありがとうございます。今回も十代の若年層から八十歳代の老年層まで幅広い世代から寄せられたばかりでなく、南アメリカやアジア、太平洋諸島、ヨーロッパなどからも御応募をいただき、国際的な広がりを得たコンテストとなりました。貴重な体験だけでなく、歴史としても重要な記録や、社会に対する鋭い批評も多く寄せられ、現代に生きる人々の様々な姿が反映された充実したコンテストとなりました。例年の通り、まず選考委員会予選担当による第三次までの予選選考が行なわれ、最後に三神弘、水木亮、都築隆広、五十嵐勉四人の選考委員によって討議されました。厳正な審査の結果、以下の通り受賞作が決定いたしましたので、ここに発表させていただきます。

今号には当選作および優秀賞を発表させていただきますが、以後奨励賞なども、極力「文芸思潮」誌上に掲載させていただきます。御期待ください。

授賞式は、明年一月七日午後一時半より東京大田区民プラザで開催します。多数の御参加をお待ちしております。

「文芸思潮」エッセイ賞

最優秀賞

「ドイツの血」

西本美彦（滋賀県大津市）

「赤い眼」

本間淑子（東京都江東区）

「兄と版画と中川商店」

金田一淳（青森県三戸郡）

優秀賞

「還りこぬ木霊」ならはたかし

（オランダ・S-H市）

「黒ダイヤの島」宮本肇（神奈川県相模原市）

「熱き再会」高橋惟文（山形県山形市）

「一個の握り飯」本間 浩（東京都府中市）

「母との約束」大倉 六（東京都府中市）

「母の手帳」伊藤秋子（東京都町田市）

社会批評優秀賞

「子宮破裂」流川千里（東京都町田市）

奨励賞

「氷解」相原智記（茨城県取手市）

「アルツハイマー病」穂山和壽（静岡県沼津市）

「祖母の火葬」今岡静雄（大阪府堺市）

「ハナチとの出会い」山路貴美（兵庫県尼崎市）

「飯山、そして残しておきたい和紙屋物語」

かのうけい（長野県飯山市）

「少女の汚れた手」豊川亜紗（東京都東久留米市）

「父の歩いた道」

森千恵子（福岡県福岡市）

「ありふれた日々」

高橋直人（北海道札幌市）

「父の選択」

土橋芳美（北海道札幌市）

「デュラスの頃、時の傷跡」日野笙子（北海道札幌市）

「死んだ金魚は還らない」早乙女加奈子（東京都西東京市）

「母の思い人」廣田瑞子（神奈川県川崎市）

「熱血教師と英国紳士そしてバカ息子」

中村行寿（岩手県滝沢市）

「顕微鏡」

磯山正玄（茨城県石岡市）

「温かく命を育てる」

家森澄子（岡山県倉敷市）

「誤解」

中田澄江（山梨県南アルプス市）

「現代医学のお蔭だが」前岡光明（東京都町田市）

「庭」

いまだまりこ（広島県呉市）

「さみち抄」

南雲佐和（神奈川県茅ヶ崎市）

「尺八の音が聞こえる」林須磨（京都府城陽市）

「笑い始めた君」葵井禎子（京都府京都市）

科学記録奨励賞

「帰ってきた発明」田中英夫（愛知県名古屋市中区）

「金星―その謎に満ちた世界と、到達に成功した探査機の物語」

漆畑晨斗（静岡県駿東郡）

社会批評奨励賞

「与太郎考」 内藤 誉 (長野県上田市)

「過ぎたるは及ばざるが如し」

ゴルビー長田 (神奈川県横浜市)

「保安係顔末記」 内山 正 (栃木県さくら市)

佳作

「金魚」 田中浩司

「聖徳の王」 川西葉吉

「父のベレー帽」 中谷万勲 藤井典央

「アクリルたわし」 田中修 友修

「ビールがまずい！」 横山佐敏

「あるカメラマンの『メール惚ぶ会』」 牧康子

「日本一周完歩・そして」 岩田アサコ

「あのときの、部屋」 佐藤義弘

「奇妙な病」 浜出羽志雄

「娘は境界域(ボーダー)」 菊池久雄

「脚本なき野外無言劇」 川添芳身 芳風

「一区間のキップ」 奥田登

「雨だれ」 瀧沢鈴

「ねづみ ねこ」 大淵勇 鷺津勇

「天職」 東フヂ子

「仏壇の中」 近藤幹夫

「それぞれのたわごと」 ナガツチヨ

「疑問」 寒川靖子

「命の終わりに」 小城ゆりこ

「地域で暮らして感じるこゝろ」 西条由美子

「私の中の彼」 清水久美子

「石ころたちの私語り」 赤井浩太

「漣」 井上理博

「刺しゅう」 坪井彰子

「娘の妊娠」 河上輝久

「従姉」 田中美晴

「魂を奪われて」 小野友貴枝

「光のビーム」 吉田宏子

「トリック時計のつくりかた」 千徒馬丁

「普通とは」 有澤かおり

「愚かなる夢追い人より、愛をこめて」 紗咲愛美

「コレヒドールの海に沈めたもの」 富嶽庵

「チーズタルトと掲示板」 椎橋萌美

「老人と雪かき」 北井正毅

「沖繩の少女」 池山弘徳

「大物たちの人情」 龍口宏

「ウシナウコトハカナシイコト」 彩野

「二十一分の七の家」 練早ゆきの

「石段にいた子供たち」 井上幸子

「山下峰次先生のこと」 森永昌雄

「映画友達」 八東一臣

「先生の後ろ姿」 屋技沼シン

「トメ」 稲垣ヨシエ

「記憶」 丸山史

「父と私と」 古川恋

「冬木立」 藤野和子

「電文」 吉田はるみ

「『居酒屋』のヒロイン」 山田まさ子

「思案の森へ」 華央子

「おばあちゃんのワンピース」 宇野陸

「首からエイを提げている女」 羽田スウ

社会批評佳作

「ネット世論」 友輝誠司

「環境問題への小さな実践」 後藤次郎

「日韓のしがらみ」 西島雅博

「小鳥に目覚め、月に遊ぶ」 末永卓幸

—自然とともに生きる人々—

入選

- 「車椅子の私の旅支度」 鳩平和
「ふるさとの先人に学ぶ」 小笠原幹夫
「主婦と主夫の意味」 岩谷隆司
「『きらら』の里」 小柳いすず
「トルコへの旅」 酒井恵三
「私の東京大空襲と父の思い出」 福岡千恵子
「肩書」 中村久美子
「私はあなたの左手」 西なぎさ
「声」 南条美起子
「今も台所が私の居場所」 「春雷」 「片付けようと思ったら」 谷和子
「先輩が行動で示してくれた教え」 迎博
「返り咲きの美学」 峰川修一
「4・5人を見る」 市原きみ子
「蛙の寺」 嶋津治夫
「警備業」 anohako
「母を看取る」 高橋登美子
「私は産めるのか」 星野夕子
「青山のおんな」 小嶋ひろ子
「心の声」 宮崎俊朗
「海翔ける馬」 辻岡真紀子
「障害を乗り越えて」 大空愛
- 「食べ物ブーム」 遊月飛鳥
「待つものがある幸せ」 斉藤はな絵
「四人の高二の仲間」 北 洋一
「与太ビクとナズナ」 武藤蓑子
「どこまでが嘘か、誰も知らない」 雪村あかり
「それぞれでいいよ」 小関真知子
「無情の宴」 木下富砂子
「手話通訳をディセント・ワークに」 横山典子
「ピエロにも恋してください」 すすきち
「客家（ハッカ）の涙」 森崎律子
「スモーキン・プギ」 龍野 健
「晩秋」 きむきよんひ
「一服の清涼剤」 ピヨモグかあさん
「同じ空の下」 大西由紀子
「残念な墓参」 田窪宣彦
「うちのハクライ」 三宅直子
「青い写真」 長枝舞
- 社会批評入選**
「タラーク、タラーク、タラーク」 季那シャンカール